

サイエンスカフェについて

1. 日本学術会議サイエンスカフェ開催と登録についてのお願い	1
参考1：声明「社会との対話に向けて」（平成16年4月20日）	6
参考2：サイエンスカフェに関する今後の対応について（平成24年11月30日）	
※改正：平成28年11月25日	7
2. サイエンスカフェの講師募集について	8
3. サイエンスカフェについて（実施手順等）	9

1. 日本学術会議サイエンスカフェ開催と登録についてお願い

平成 28 年 11 月 25 日改
日本学術会議科学と社会委員会
科学力増進分科会委員長 須藤靖

日本学術会議第 19 期に出された声明「社会との対話に向けて」（2004 年 4 月 20 日）では、「日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる行動を行う」と謳っています（参考 1）。この声明を受けて、日本学術会議は過去 10 年以上にわたり、サイエンスカフェを主催しています。サイエンスカフェは、科学者が市民に一方的に講演を行うのではなく、広く市民の方々が興味を持つ話題を提供しながら、それに関して双方向で議論をできる場です。そのために、参加者は 30 名程度の少人数とし、飲み物を飲みながら、また、場合によっては簡単なお菓子を食べながら、くつろいだ雰囲気に対話ができる場となることを目指しています。現在、日本学術会議科学力増進分科会は、毎年奇数月に東京の文科省ラウンジにおいて、文科省と共催でサイエンスカフェを企画、実行しています。

サイエンスカフェは、現在では様々な団体により数多く開催されるようになっていますが、その先鞭をつけたのは日本学術会議です。その一方で、サイエンスカフェのほとんどは東京圏に集中しています。したがって、科学力増進分科会では、このような取り組みを特に地方に展開していきたいと希望しています。しかしながら、予算的および人力的な制約のために、その実現はなかなか困難です。そこで、日本学術会議会員および連携会員の皆様にぜひともご協力をお願いしたいと考えています。

ご自分が東京圏以外の研究機関に所属されている会員および連携会員の皆様はいうまでもありませんが、それ以外の方々も、学会あるいは集中講義等のために全国各地に出張される機会は多いことと思います。その際に、そちらの自治体や大学、研究機関、中学校、さらには、諸団体で、日本学術会議と共催でサイエンスカフェを実施する希望がないかどうか伺っていただけないでしょうか。実は、そのような企画に興味があるにもかかわらず、お互いの情報のミスマッチのために、実現に至っていないだけという場合も少なくないかもしれません。

そのための試行として、2013 年 9 月 21 日に、日本学術会議と高知市が共催してサイエンスカフェを実施しました。この際は、日本物理学会に参加した日の夕方を利用したので、講師の旅費は不要、かつ会場費と飲み物代は高知市が負担してくれました。高知県では初めてのサイエンスカフェであり、幅広い年齢層から椅子の数が足りなくなるほどの参加者があり、とても好評をはくしました。この経験を元に、今年度からは日本学術会議全国縦断サイエンスカフェと銘打って、サイエンスカフェの活動を全国に波及させたいと考えています。

ところで、サイエンスカフェでとりあげる話題は、狭い意味での科学に限ると思ひ込んでいる方がいらっしゃるかもしれません。でもそれはまったくの誤解です。今まで学術会議が関与してきたサイエンスカフェは <http://www.scj.go.jp/ja/event/cafe.html> で紹介されていますが、それらは自然科学にとどまらず、多くの人文科学、社会科学を含む広範な話題にまたがっています。さらに、それは決して専門家が市民を啓蒙するという場ではなく、双方

向の対話を通じて、専門家が市民の声を直接聞きそれから学ぶ貴重な機会を提供してくれる場なのです。むしろ、今まであまりこのようなサイエンスカフェで取り上げられてこなかった話題の積極的な提案を歓迎いたします。

日本学術会議が主催あるいは共催のサイエンスカフェとするための要件は、以下の通りです。

- (1) 会員あるいは連携会員が一名以上、挨拶、司会、あるいは講師のいずれかを行う
- (2) 営利目的ではなく、参加費は無料、あるいは飲み物の実費代程度とする
- (3) 科学力増進分科会に対して、(1)に関係する会員または連携会員が事前に届け出（別紙1 参照）を行う

（必要と認められる場合には審議を行うこともあります。）

また、サイエンスカフェの主催にあたっては、以下の諸点にご留意ください。

- 1) サイエンスカフェを主催または共催するにあたって、日本学術会議会員、連携会員に講師あるいは司会を依頼する際には、予算の範囲内で旅費等の支給が可能な場合がありますので、事務局にご相談下さい。
- 2) 科学力増進分科会に届け出を行った後は、「日本学術会議主催または共催」の名称を、また、会員、連携会員が講師として参加する場合には「日本学術会議会員または連携会員」の肩書きをポスターおよびプログラム等において明示することで、科学者コミュニティの代表機関として日本学術会議の活動を具体的に社会に示すようご配慮ください。
- 3) 課題別委員会、分野別委員会、機能別委員会、地区会議など、委員会の諸活動において、一般市民と直接触れ合う機会を通して、広く意見を聴取する機会を確保するため、また、委員会の活動成果を直接、市民に向けて発表する機会として、サイエンスカフェの場を活用していただくことで、日本学術会議の活動が目に見える形で社会に還元することが可能になります。
- 4) 日本学術会議は、サイエンスカフェの講師として御協力下さる会員・連携会員の登録を行い、情報をホームページに公開しています。是非ともご登録いただきますようお願いいたします。
- 5) サイエンスカフェ開催にあたっての注意事項等につきまして、「サイエンスカフェに関する今後の対応について」（平成 24 年 11 月 30 日※改正：平成 28 年 11 月 25 日）の資料も併せてご参照ください（参考 2）。
- 6) サイエンスカフェ終了後には、サイエンスカフェのホームページ（<http://www.scj.go.jp/ja/event/cafe.html>）に掲載するための報告（別紙 2 参照）を提出いただきますようお願いいたします。なお、全国縦断サイエンスカフェとして実施いただく場合には、『学術の動向』に掲載する可能性もあります。

上記をご確認いただき、ご協力いただける場合には、別紙 1 に必要事項を記入の上、科学力増進分科会担当（kadaibetu-scj@cao.go.jp）まで、実施の約 2 か月前までにご連絡いただきますようお願いいたします。

以上、皆様のご支援、ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

(参考1：日本学術会議 声明「社会との対話に向けて」(2004年4月20日)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-19-s1012-1.pdf> (日本語)

<http://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-19-s1012-2.pdf> (英語)

(参考2：サイエンスカフェに関する今後の対応について (平成24年11月30日)

※改正：平成28年11月25日

日本学術会議サイエンスカフェ提案書

申請日： 年 月 日

申請者（会員、連携会員）：

1. 日 時：
 2. 場 所：
 3. 関係団体：
（開催に関係する（費用負担含む）団体をすべて明記してください）
 4. 申請者の役割：
（挨拶、司会、講師、その他（具体的に記入）の中から該当するものを選んで下さい）
 5. 題目：
 6. 内容：
（出演される方全員の氏名・所属・役職を明記してください。もし参考資料等があれば、添付してください）
 7. 参加費：
 8. 参加予定人数：
 9. 連絡担当者：
（事務局から問い合わせをする可能性があるので、連絡できる方を明記してください）
氏名（所属・役職）
電話番号
メールアドレス
-

全国縦断サイエンスカフェとしてのナンバリングを

希望する

希望しない

※どちらかに丸をつけてください

日本学術会議サイエンスカフェ提案書（例）

申請日：2016年 3月 14日

申請者（会員、連携会員）： 須藤靖（会員）

1. 日 時：2016年5月18日（水） 17：00～18：30
 2. 場 所：高知県高知市 高知工科大学 永国寺キャンパスセミナー室
 3. 関係団体：高知工科大学、高知市教育委員会、高知みらい科学館
（開催に関係する（費用負担含む）団体をすべて明記してください）
 4. 申請者の役割：講師
（挨拶、司会、講師、その他（具体的に記入）の中から該当するものを選んでください）
 5. 題目：「この空のかなた：第二の地球、ダークエネルギー、重力波」
 6. 内容：添付したプログラムを参照のこと
（出演される方全員の氏名・所属・役職を明記してください。もし参考資料等があれば、添付してください）
 7. 参加費：無料
 8. 参加予定人数：40名以内
 9. 連絡担当者：
（事務局から問い合わせをする可能性があるので、連絡できる方を明記してください）
氏名（所属・役職） 日学太郎（高知工科大学・教授）
電話番号 0887-xx-xxxx
メールアドレス taro@xx.kochi.ac.jp
-

全国縦断サイエンスカフェとしてのナンバリングを

☒ 希望する☐ 希望しない

※どちらかに丸をつけてください

サイエンスカフェの概要について（事後報告）

1. 開催日時：平成〇〇年〇月〇日（〇） 〇時〇分～〇時〇分

2. 開催場所：○○○○○○○○○○○○○○○○

3. 関係団体等：〇〇〇大学、〇〇〇学会

- #### 4. 役割

司会：〇〇〇〇（〇〇〇大学教授）

講師：〇〇〇〇（〇〇〇大学教授）

- ### 5. 概要：

※講演内容や質疑応答等について、簡単にご記入ください。

当日の配布資料等があれば、その添付のみでも構いません。

6. 参加人数：

講演者等：〇〇名

その他の参加者：〇〇名

7. 特記事項：

※実施結果等について、特に記しておくべき事柄があればご記入ください。

参考 1

声明「社会との対話に向けて」
日本学術会議、2004年4月20日

我々日本学術会議は、科学者と社会が互いに共感と信頼をもって協同することなくして、いかなる科学研究も生命感の漲る世界を持続させることができないことを認識する。さらに、我々は、科学研究は、社会が享受すべき成果をもたらす反面、社会に対する弊害を引き起こす恐れがあるという正負両面があることを、科学者も社会も明確に理解すべきであると認識する。

このような認識に立ち、我々は、科学者が社会と対話をする事、特に人類の将来を担う子どもたちとの対話を通して子どもたちの科学への夢を育てることが重要であると考えている。

我々日本学術会議は、これから科学者と社会がしっかりと手をつないでいくことを推進する。まず、日本学術会議は、子どもたちをはじめとするあらゆる人々と科学について語り合うように、全ての科学者に呼び掛ける。また、日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる可能な行動を行う。

サイエンスカフェに関する今後の対応について

平成 24 年 11 月 30 日

日本学術会議第 166 回幹事会決定

改正 平成 28 年 11 月 25 日日本学術会議第 238 回幹事会決定

サイエンスカフェは、科学者が市民と少人数で直接コミュニケーションを行う草の根活動です。日本学術会議の科学と社会委員会科学力増進分科会が行ってきたサイエンスカフェの活動が大きなきっかけとなり、現在では全国で数多くのサイエンスカフェが開催されています。科学・技術コミュニケーションを審議する科学力増進分科会では、狭い意味のサイエンスではなく、日本学術会議の第一部から第三部が取り組んでいる、より広い意味での学術を対象としたサイエンスカフェの企画を行っています。

これまでの活動を踏まえて、サイエンスカフェに関する対応については、当面、以下のとおりとするようお願いします。

1. サイエンスカフェにおいて、日本学術会議の会員、連携会員が一名以上、挨拶、司会、あるいは講師のいずれかを行う場合に、そのサイエンスカフェを学術会議の主催または共催とすることができます。科学者と市民との対話の機会として、積極的に取り組むようにしてください。

2. 会員、連携会員がサイエンスカフェを主催または共催する場合には「日本学術会議主催（または共催）」の名称を、また会員、連携会員がサイエンスカフェに講師として参加する場合には「日本学術会議会員（または連携会員）」の肩書きを、ポスター、プログラム等において用いることにより、科学者コミュニティの代表機関としての日本学術会議の活動を、具体的に目に見える形で社会に示すように努めてください。

なお、サイエンスカフェは、専ら日本学術会議の見解を示すための場ではないことを徹底してください。

3. 運営内規第 5 条は、学術会議が講演会、シンポジウム等を開催する場合には、開催主体に応じて幹事会の決定または承認を得ることといった手続きを定めています。しかし、サイエンスカフェについては、小規模の会であること、科学者と市民との間の双方向のコミュニケーションの場であること、コーヒーを飲みながらといった気軽な雰囲気は無償（又は実費程度）で開催されるものであることを踏まえて、会員、連携会員は、事務局を通じて科学と社会委員会科学力増進分科会に事前に届け出（別紙 1 参照）を行うことによって、その手続きを省略して主催または共催することができます。ただし、幹事会での審議が必要と判断される場合にはこの限りではありません。

なお、講演会、シンポジウム等を開催しようとする際に、幹事会の決定または承認といった手続きを省略する意図でサイエンスカフェを名乗るなど上記方針を濫用すること

のないよう留意してください。

4. サイエンスカフェの実施後には、日本学術会議ホームページに掲載するための報告（別紙２参照）を提出するようにしてください。

なお、全国縦断サイエンスカフェを開催した場合には、ホームページ以外での掲載の可能性もあります。

附 則

この決定は、平成２９年１月１日から施行する。

2. サイエンスカフェの講師募集について

1. サイエンスカフェの開催

科学と社会委員会科学力増進分科会（委員長 須藤 靖）では、国民の科学力を増進する活動のひとつとして、平成 18 年の科学技術週間に、全国 21 箇所においてサイエンスカフェを開催し、また、平成 20 年 3 月からは、毎月第四金曜日夕方に、「文部科学省情報ひろば」においてサイエンスカフェを開催するなど、積極的にサイエンスカフェの開催に取り組んできました。

サイエンスカフェは、科学者が市民と対等の目線で出会うコミュニケーションの場として実施しているものですが、この試みは世界的にも日が浅いものであり、広報・科学力増進分科会では、一層、サイエンスカフェを通じて、科学と社会とのコミュニケーションを図っていく活動に取り組んでいく予定です。

2. 講師募集について

科学力増進分科会では、会員・連携会員が参加するサイエンスカフェが活発に開催されることを目的として、引き続き会員・連携会員の皆様の講師登録をお願いしたいと考えております。

サイエンスカフェ活動に興味と関心をお持ちの方の積極的なご協力をお待ちしております。

なお、講師としてご登録いただくと、今後他の団体等からご講演の依頼がある場合がありますので、ご承知おきください。

○ 講師登録手続き：

登録を希望する方は、下記 URL のフォームにおいて、①氏名、②所属・職名、③専門分野、④予定タイトル、⑤連絡先、をご記入いただき、お申し込み願います。

※ 登録いただいた内容を基に講師リストを作成、サイエンスカフェ実施団体等への協力依頼用資料とし、日本学術会議のホームページで公開します。

※ 既にご登録頂きました会員・連携会員の方々は、引き続き講師リストに掲載させて頂きたいと存じますので、修正点等ございましたらご連絡下さい。

○ 申込み・問合せ先：

日本学術会議事務局参事官（審議第二担当） 付

TEL : 03 (3403) 1082 FAX : 03 (3403) 1640

登録フォームURL : <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0059.html>

3. サイエンスカフェについて(実施手順等)

サイエンスカフェとは？

街中のカフェでコーヒー片手に、人々と科学者が
“サイエンス”をテーマに自由闊達に対話・議論する場

特徴

- コーヒーを飲みながら → 講演会ではない。日常の延長
- 少人数である → 参加者全員が対話に参加
- 専門用語は使わない → “誰も”が気軽に参加が可能
- アットホームな雰囲気 → 参加者同士の議論も歓迎

日本学術会議は政策の提言にとどまらず、国民と科学をつなぐ科学コミュニケーターの役割を積極的に果たすべきである。今回実施するこのサイエンスカフェでは、日本学術会議会員が一科学者として率先して市民と同じ空間・時間を共有し、価値観や疑問点のすり合わせを行い、科学者と一般社会の双方の認識のずれや共通点を顕在化させると同時に、日ごろから対話する文化をつくり科学技術についての会話に対する素養を国民すべてがもてるようにすることを目的とする。

日本学術会議におけるサイエンスカフェの開催について

日本学術会議 声明「社会との対話に向けて」(2004年4月20日)

日本学術会議は自ら、科学に対する社会の共感と信頼を醸成するために、あらゆる可能な行動を行う。

日本学術会議において、積極的にサイエンスカフェを開催

日本学術会議における開催の意義： 国民の科学に対する理解の増進を図ることに加え、

- ・課題別委員会、分野別委員会、機能別委員会、地区会議など、委員会の諸活動において、一般市民と直接触れ合う機会を通して、広く意見を聴取する機会を確保。
- ・委員会の活動成果を直接、市民に向けて発表する機会を確保。
- ・科学コミュニケーターを仕事とする人たちのファシリテーターとして起用。

- ・日本学術会議として今後発信していく様々な提言や要望へ繋げていく。
- ・日本学術会議の活動が目に見える形で社会に還元。
- ・科学コミュニケーターの育成。

会員・連携会員の皆様へのお願い

- ・会員・連携会員の講師登録
- ・会員・連携会員によるサイエンスカフェの開催
(特に、サイエンスカフェが未だに行われていない地域における積極的な開催)

